

厚労省の公立・公的病院攻撃は許されない

私は12日、公立・公的病院の再編統合問題、消防活動等で一般質問を行いました。一番力を入れたのは、市民の命と健康に係る病院問題です。以下はその概要です。

【橋爪】9月26日、27日のテレビ、新聞報道には驚いた。政府・厚生労働省は公立・公的病院の再編統合に向けた議論を促すとして全国424の病院名を一方的に公表したからだ。このうち新潟県は22病院が対象として上げられ、上越医療圏では柿崎病院、妙高病院など5病院の名前があがっている。わが家では2人の子どもが柿崎病院で生まれた。地域住民の命と健康にかかわる大事な病院だ。

市長に訊きたい。「病床数の削減を前提とするのではなく」、「各地域の実情に沿った、医療・介護サービスの提供体制の充実を図る」とした新潟県地域医療圏構想の目的に沿った議論が必要なのではないか。今回の公立・公



的病院の再編統合をどう認識しているのか。公立・公的病院の在り方については関係自治体の自主的な判断が求められる。関係自治体と共同し、厚生労働省主導の進め方に抗議すべきではないか。

【村山市長】国は、全国の公立・公的医療機関について、高度急性期と急性期機能に特化した診療実績を基に分析を行い、再編統合の必要性について特に議論が必要な公立・公的医療機関を「再検証対象医療機関」として公表した。これは、医療機関が担う急性期機能やそのために必要な病床数などについて再検証を求めるものであり、直ちに再編統合を強制されるものではない。冷静に受け止め、今後の動向を注視しながら対応してまいりたい。

11月20日に開催された自治体病院全国大会2019において、全国市長会、全国市議会議長会などの連名で、「立・公的医療機関等が全国一律の基準により分析したデータだけで機械的に再編統合される事態はあってはならない」、「厚生労働省の進め方に関しては強い懸念を覚える」ことなどを内容とした決議が行われた。

【橋爪】今回の厚労省の発表は異例だ。どう受けとめたか。

【大山健康福祉部長】病院名公表の情報は以前から入っていた。ただ、こういう形の公表もセンター病院が入ることも想定していなかった。病床数削減等が思うように進んでいないことから公表だと思っ

【健康福祉部長】民間病院のデータも含めて検証する必要があるということなどから厚労省も慎重に進めているのではないか。

【橋爪】私は、今回の厚労省の発表に関係者が怒った、そして世論が高まっ



【トリトマ】ユリ科の多年草。原産地は南アフリカ共和国。草丈は60センチから1メートル80センチ。花期は6月から10月とのことですが、12月になっても赤と黄色の花を咲かせています。花言葉は「恋の痛み」「情熱家」。吉川区竹直にて16日、撮影しました。



【健康福祉部長】今回は9項目、基本的に急性期の基準の中で検証されている。その結果、地域医療を支えているセンター病院などの名前があがっている。ただ、国の方はいきなり整理統合ではなく、議論の活発化（を狙っている）ということもあるので、冷静に受け止めながら適正医療を目指す。

【橋爪】新聞などの報道では、厚労省が10月にも通知を出すということだったが、いまもって出てこない。どう見ているか。

【健康福祉部長】民間病院のデータも含めて検証する必要があるということなどから厚労省も慎重に進めているのではないか。

【橋爪】私は、今回の厚労省の発表に関係者が怒った、そして世論が高まっ

たから簡単に通知を出せなくなったのだと思う。そういうなかで心配なのは県の動きだ。県の新しい取り組み方針のなかで、柿崎病院は民間ではだめだが、「公立として運営していく必要がある」「中央病院と機能統合し、運営主体のあり方を検討すべき」となっている。だから様子を見るという話ではない。上越市民の命と健康を守るためにも意見をのべていく必要がある。（市民が関係する）病院は守ってもらいたい。どう対応しているか。

【健康福祉部長】取り組み方針の状況は理解している。提言自体は決まったことではない。地域医療構想調整会議のなかで必要な発言をしていく。

はしづめ法一の活動レポート

No.1939 2019.12.22
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五八七回

七〇になったら

古希を迎えた中学時代の同級生たち。先だつての同級会以降も電話をかけたたり、お茶飲みをしたりと交流が続いています。

先週の金曜日の夜には大湊区、柿崎区、吉川区に住む同級生のうち、七人が集まって、土底浜のあるお店で「いっぱい会」をやりました。

同級生だけの集まりでは、誰に気兼ねする必要もないし、ぎゅっぐゅっらんに話ができる。それがいいのです。ビールで乾杯してから、すぐにおしゃべりが始まりました。

私のすぐ隣には、バスの車掌をやったことのあるミツコさんが座っていました。そのミツコさんの隣にはカヲルさんがいて、さらにその隣にはサチコさんがいました。

最初に私の耳の入ってきたのは三人の女性同級生の会話です。何の話をしていたのかよく聞きとれませんが、「いい男が……」と、お父さんにならないものがあつた。

そんな「あぶない」言葉が聞こえてきました。もっとも、「遠慮しないで、男しょと大いに話をしましょう」といったレベルの話ですから心配なく……。

「私ね、仕事やめたら、忘れっぽくなったの。原因、何だかわかる。いつも音楽聴いているんだわ。さみしいの」

そこまで話したところで、お店のスタッフが刺身を皿に入れてテーブルの上に置いていくと、話は急展開。ミツコさんは、「このお店ね、活きのいい魚を出してくれるのよ。どっから持ってくるんじゃないかって、その海でとったのを使っているんだわ。うんげん甘々の刺身、うごよむ」

と言いました。

この日は、地魚の刺身からはじまって、牛タンのつくね、八つ橋風チーズ、もつ料理、しゅうまい、お好み焼きなど、おいしい料理が次々と運ばれてきました。

集まった同級生の中にはすでに満年齢で七〇歳になった人もいれば、これからの人もいます。七〇歳というのは、やはり節目の歳なんですよね。誰がいつ誕生日を迎えるのかという話になりました。

シヨウイチくんもトラオくんも、ともに一月生まれ。サチコさんと私は三月生まれです。誕生日を言うたびに、「えーっ、そっうだったの」「なるほどね」といった声があがりました。これまで何十回も会っているのにおかしなものです。

そもそも、我々の世代では誕生日を意識した家庭生活をしている人はあまりいません。誰かが、「誕生日に、“誕生日、おめでとう”って言われたことがない」とも言っていました。

この「誕生日談義」の延長線上でまた話が盛り上がりました。みんなが笑ったのはミツコさんの話です。

「七〇になったら、わが家、脂っこいもの食べなくなってきた。そしたら、毎日、同じオカズになったの」

すかさずカヲルさんが言いました。「どこも一緒よ。大根の煮物でしょ、干切りでしょ。それから……」

この日はカヲルさんも大いに語りました。カヲルさんは長年、柿崎郵便局の近くのある食堂に勤めていたのですが、七〇でひと区切りと想っていたのでしよう、今年辞めたこのことでした。そのカヲルさん、「〇〇〇〇やめてから一週間くらい（手伝いに）行ったの。そしたら、『やはり、おまんいなきゃだめだ』と言われた。嬉しかったなあ」

この夜の「いっぱい会」は、皆が時間が経つのを忘れ、三時間以上も続きました。七〇になると、それぞれ新しい生活の探求がはじまるんですね。でも、いくつになっても仲良く、「元氣」暮らしたいものです。

市立上越体操場が完成し、議員に公開



「市民合意がない」「大湊体操アリーナを充実させるだけではダメなのか」など建設を巡って市政を揺るがした上越体操場がこのほど完成し、16日、議員に公開されました。真新しい体操場は、床に弾力性のあるスポーツ専用シートをとり入れ

たり、競技中にライトが目に入らないようにするなど最新の設備となっています。また、体操器具は東京オリンピックで使用されるものが17日から入ってくるということです。

全体的に最新の設備で、使いやすいという印象を受けましたが、2階の観客席から体操競技場を見下ろすときの「仕切り板」が低いと感じました。また、注目されているランニングコストですが、担当課の話では、年間2000万円（1日あたり5万5000円）以上かかるとのことでした。今後が大変ですね。



天然スイーツ

ある人から「天然スイーツ」という言葉を教えていただきました。

この「天然スイーツ」、いまの時期、すっかり甘くなって、しかもヘルシーです。

カラスに食べられる前に、食後のデザートとしてぜひお試しください。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月11日(水)	12月18日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.043	0.057
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.060	0.077
東頸消防署	0.050	0.057
高士分遣所	0.047	0.067
名立分遣所	0.047	0.053

春よ来い

第五八七回

七〇になったら

古希を迎えた中学時代の同級生たち。先だつての同級会以降も電話をかけたたり、お茶飲みをしたりと交流が続いています。

先週の金曜日の夜には大湊区、柿崎区、吉川区に住む同級生のうち、七人が集まって、土底浜のあるお店で「いっぱい会」をやりました。

同級生だけの集まりでは、誰に気兼ねする必要もないし、ぎゅっぐゅらんに話ができる。それがいいのです。ビールで乾杯してから、すぐにおしゃべりが始まりました。

私のすぐ隣には、バスの車掌をやったことのあるミツコさんが座っていました。そのミツコさんの隣にはカヲルさんがいて、さらにその隣にはサチコさんがいました。

最初に私の耳の入ってきたのは三人の女性同級生の会話です。何の話をしていたのかよく聞きとれませんが、「この男が……」

「私ね、仕事やめたら、忘れっぽくなったの。原因、何だかわかる。いつも音楽聴いているんだわ。さみしいの」

「そこまで話したところまで、お店のスタッフが刺身を皿に入れてテーブルの上に置いていくと、話は急展開。ミン「やんば、このお店ね、活きのいい魚を出してくれるのよ。どっから持ってくるんじゃないかって、その海でとったのを使っているんだわ。うんげん甘々の刺身、ささめ」

「この日は、地魚の刺身からはじまって、牛タンのつくね、八つ橋風チーズ、もつ料理、しゅうまい、お好み焼きなど、おいしい料理が次々と運ばれてきました。」

集まった同級生の中にはすでに満年齢で七〇歳になった人もいれば、これからの人もいます。七〇歳というのは、やはり節目の歳なんですよね。誰がいつ誕生日を迎えるのかという話になりました。

「シヨウイチくんもトラオくんも、ともに一月生まれ。サチコさんと私は三月生まれです。誕生日を言うたびに、「えーっ、そっうだったの」「なるほどね」といった声があがりました。これまで何十回も会っているのにおかしなものです。」

「私も、我々の世代では誕生日を意識した家庭生活をしている人はあまりいません。誰かが、「誕生日に、“誕生日、おめでとう”って言われたことがない」とも言っていました。」

この「誕生日談義」の延長線上でまた話が盛り上がりました。みんなが笑ったのはミツコさんの話です。

「七〇になったら、わが家、脂っこいもの食べなくなってきた。そしたら、毎日、同じオカズになったの」

「すかさずカヲルさんが言いました。『どこも一緒よ。大根の煮物でしょ、干切りでしょ。それから……』」

この日はカヲルさんも大いに語りました。カヲルさんは長年、柿崎郵便局の近くのある食堂に勤めていたのですが、七〇でひと区切りと想っていたのでしよう、今年辞めたこのことでした。そのカヲルさん、

「〇〇〇〇やめてから一週間くらい（手伝いに）行ったの。そしたら、『やはり、おまんいなきやだめだ』と言われた。嬉しかったなあ」

この夜の「いっぱい会」は、皆が時間が経つのを忘れ、三時間以上も続きました。七〇になると、それぞれ新しい生活の探求がはじまるんですね。でも、いくつになっても仲良く、「元気に暮らしたいものです。」

橋本正幸議員が総合事務所時間外受付体制見直しなどで討論

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月11日(水)	12月18日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.043	0.057
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.060	0.077
東頸消防署	0.050	0.057
高士分遣所	0.047	0.067
名立分遣所	0.047	0.053



12月議会の最終日、注目された総合事務所の時間外受付体制見直しに関連する経費を盛り込んだ一般会計補正予算は、賛成21、反対6で可決成立しました。反対は市民クラブと日本共産党議員団だけでした。

採決に先立つ討論には、日本共産党議員団の橋本正幸議員が登壇しました。

同議員は、総合事務所の時間外受付体制見直しに関して、「戸籍届などの手続きが市民の住んでいる区の総合事務所間で間に合う人とそうでない人が生まれることになる。合併時の、それぞれの区の総合事務所等

しく市民サービスが受けられるようにするという考え方はどうなったのか」「時間外における防災行政無線の放送のうち、火災や停電の発生、クマ目撃等に関するものは、総合事務所長の判断により、職員が登庁して対応するとしているが、ここで出される放送の中には、1分1秒の遅れが人命にかかるとも出てくるはずだ。これまでよりも遅れる可能性があるものを認めるわけにはいかない」とのべ、反対しました。

同議員はまた、高田小町や市民プラザなど公の施設利用料の引き上げの議案についても、「10月からの消費税引き上げにより、いま市内経済は冷え込み、市民の家計にも大きな影響を与えている。こういう時、消費税引き上げ分だけでも大変なのに、「受益者負担の適正化」の名のもとに増税分を上回る利用料の引き上げをするのは断じて許されない」とのべて反対しました。